

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援RePort新座教室			
○保護者評価実施期間	R6年 9月16日		～	R6年10月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40家庭	(回答者数)	26家庭
○従業者評価実施期間	R6年10月7日		～	R6年10月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R6年12月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	臨床心理士・公認心理師や作業療法士等、専門職員の配置がある。	職員それぞれが専門性を活かして連携できるようこまめな振り返りや会議の実施を行い、支援の振り返りを行っている。	保護者さまやお子さんのニーズに合わせた支援や柔軟な配置ができるようにしていく。職員の専門性を活かした支援を行っていく。
2	多様な遊び・課題の提供等、個々に合った柔軟なプログラムを実施している。	ご家庭との連携を密に図り、事業所の姿以外も聞き取りを通して把握することを意識している。 また、不定期ではあるが心理士職員と管理者で保護者さま宛てのグループディスカッションを行うプログラムも実施している。	引き続き、ご家庭との連携は密に行い、多面的な視点から家族全体を支援できるようにする。 また、進級や就学に向けてのフォロー等、ご家庭の支援も含めて見直しを持って行っていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練の実施報告等のアナウンスがなく、実施しているかわからないというご家庭が多かった。	訓練関係や、感染症対策等、事業所で行っている取り組みのアナウンスができていなかった。	活動の報告以外にも訓練や感染症対策等、事業所で行っている取り組みはこまめに報告、アナウンスするようにしたい。
2	お子さん・ご家庭のニーズに合わせた利用の提案を行う。	支援内容の見直しや利用日数の見直し等、アナウンスしきれていない場面があった。	こまめに保護者の方と話し合う機会を設け、都度支援の方向性や今後の見直し等を話し合えるようにする。
3			